

イエスとザアカイ

鍵となる聖句：「イエスはその場所にたどり着くと、見上げ、その人を見つけて言われた。『ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日、私はあなたの家に泊まるのだ。』」

ルカによる福音書 19章5節

選読箇所：

ルカによる福音書 19章1-10節

ザアカイは、エリコ地方に住む裕福な徴税人でした。ユダヤ人である彼は、徴税人が納税者をだますことで知られていたため、同胞から軽蔑されていました。さらに悪いことに、彼はローマ政府のために働いていました。イエスがエルサレムへ向かう旅の途中でエリコを通られたとき、ザアカイは「イエスがどのような方か見たかったが、背が低かったので、群衆の向こう側が見えなかった。そこで、イエスはその道を通って来られるのを見て、彼は先回りして、イエスを見るためにイチジクの木に登った。」ルカによる福音書19章3、4節

この鍵となる聖句は、イエスに人の心を読む力があつたことを示しています。ユダヤ人の見物人たちの高慢さは明らかでした。彼らは、自分たちが罪人だと見なしていたこの人物の家で、主が食事を共にしたいと望まれたことを知り、衝撃を受け

たのです。しかし、ザケウスは喜びをもってイエスを迎えました。ルカ19:6,7

ザアカイはその後、賠償について宣言しました。自分の財産の半分を貧しい人々に与え、自分が不当に扱った人々には四倍の賠償をする、と（ルカ19:8）。モーセの律法では、一般的に四倍の賠償を求められることはなく、通常は不当に扱った物の価値に五分の一を加えた額でした。（レビ記5:14-16；民数記5:5-7）。ザアカイはそれ以上のことをした。そこでイエスは、ザアカイの家に救いが訪れたと宣言された。これは、神の御用に使われるにふさわしい品性を示したことにより、神の視点から見れば、彼が神の恵みに回復されたことを示唆しているようだ。ルカ19:9

キリストに奉獻された信徒として、私たちはこの物語から自らの歩みに活かすべき教訓を得ることができます。これらは、私たちの思い、言葉、行いにおいて、主と非常に親密に歩む必要性を自覚させてくれるはずです。不完全な人間として、神の御霊によって生まれた子供たちでさえ、罪に打ち負かされる可能性があることを認識しています。そのような行為は意図的なものでない場合もあれば、部分的に故意であり、深刻な結果を招く可能性を秘めている場合もあります。罪の行いが生じたとき、私たちが神の完全な恵みに回復されるためには、それを認め、悔い改める必要があります。祈りと、心を聖なる思いで満たすことは、私たちの生活における罪の発生を予防し、あるいは減らすための二つの効果的な手段となり得ます。

ある著名なキリスト教作家は、この教訓について次のように述べています。「ユダヤの時代の終わり」と肉的なイスラエルに属していたこの出来事と、この時代の終わり」と霊的なイスラエルとの間に、類似点を見出すことができるでしょう。今日、私たちは、ザアカイが主の律法の契約から背いたように、主の恵みの契約から背いた者たちを見出します。彼らは、ある程度の罪の中に生き、自分たち自身も不正であり良心に反していると認めるような商売に身を置いているのを見かけるかもしれません。したがって、私たちは福音のメッセージ、すなわち大いなる喜びの良き知らせを携えて、彼らを素通りしてはなりません。もしそのような人々が現在の真理に関心を示すならば、私たちの主であり頭である方がザアカイを助けたように、私たちも彼らを助けようと努めなければならないのです。」

イエスとザアカイの体験には、私たちが他者、特に信仰の家族であるキリストにある兄弟姉妹と関わる際に、見習うべき素晴らしい模範が示されています。